

目的 上腕部、大腿部の検討に続きストレッチ性衣服の胴部における詰め率と衣服圧、圧感覚、体型との関係を実験用ベルトとガードルの着用実験によって検討した。

方法 1) ウエストベルトによる実験：被検者は、Rohrer 示数 1.19 以下， $1.30 \pm 0.1$ ，1.40 以上の女子学生各 5 名。ベルトは、幅 5 cm でパワーネット 2 重構造のものを試作，その生体周径に対する縮小率を 0~10% とした。測定部位は、胴部前，側，後面である。

2) ガードルによる実験：被検者は，Rohrer 示数  $1.30 \pm 0.1$  11 名，1.40 以上 3 名。試作ガードルは，石膏包帯法により採取した胴下部展開図をもとに腰圍を 0~16 cm まで 4 cm きざみで詰めたものである。パワーネット製。市販ガードルとしては，材質，構造の異なる 2 種（A 型 4 サイズ，B 型 6 サイズ）を対象とした。

3) 1) 2) の衣服圧測定には，キュライト LQL-125-25 型トランスジューサーを用い，圧感覚は 1 対比較法により評価した。

結果 1) ウエストベルトの緊迫においては，①詰め率と衣服圧間には，上腕部，大腿部と同様高い相関が認められた。②衣服圧の実測値は，部位による差を示し，側面で高く，前面，後面で低い値を示した。③圧力の好適値は，上腕，大腿の  $8 \text{ g/cm}^2$  内外の結果に比して，側面では，やや高い  $10 \text{ g/cm}^2$ ，前・後面ではやや低い  $5 \text{ g/cm}^2$  内外を示すことが明らかになった。このときの縮小率は 2~5% であった。

2) ガードルにおいては，好適値に体型差が認められ，Rohrer 示数の高い人程好適値が上昇する傾向を示した。